

Ⅱ 我が国を取り巻く安全保障環境

我が国を取り巻く安全保障環境

1 グローバルな安全保障環境

- 国家間の相互依存関係が一層拡大・深化
- 純然たる有事でも平時でもない**グレーゾーンの事態が増加傾向**
- 沿岸国の一方的な主張・行動による、公海の自由が不当に侵害される状況の発生
- **宇宙空間・サイバー空間の安定的利用の確保**が、国際社会の安全保障上の重要課題へ



北朝鮮の移動式ミサイル「ムスダン」

2 アジア太平洋地域における安全保障環境

- **グレーゾーンの事態の長期化、より重大な事態に転じる可能性の懸念**
- **北朝鮮**の核・ミサイル開発は、我が国の安全に対する重大かつ差し迫った脅威
- **中国**は軍事力を広範かつ急速に強化。また、周辺海空域等における活動を急速に拡大・活発化、力を背景とした現状変更の試み等、高圧的とも言える対応を示している。こうした軍事動向等については、我が国として強く懸念。また、地域・国際社会の安全保障上も懸念
- **米国**のアジア太平洋地域へのリバランス(戦略の重点をより同地域に置くとの方針)



尖閣諸島(魚釣島)

3 我が国の地理的特性等

- 海洋国家である我が国にとり、**海上交通及び航空交通の安全の確保**は平和と繁栄の基礎
- 我が国は、自然災害が多いなど安全保障上の脆弱性あり、**大規模災害等への対処に万全を期す必要性**



東日本大震災時災害派遣

【以上を踏まえた結論】

- 主要国間の大規模武力紛争の蓋然性は引き続き低いと考えられる一方、様々な安全保障上の課題や不安定要因はより顕在化・先鋭化し、**22大綱の策定以降、我が国を取り巻く安全保障環境は、一層厳しさを増している**
- 安全保障上の課題や不安定要因は多様かつ広範で、一国のみでは対応が困難。課題等への対応に利益を共有する各国が、地域・国際社会の安定のために協調しつつ積極的に対応する必要性が更に増大

(参考1) 最近の我が国周辺での安全保障関連事象

(14年1月6日現在)

北朝鮮による核実験の実施(13年2月)

北朝鮮による「人工衛星」と称するミサイル発射(12年12月)

潜没潜水艦による我が国接続水域内の航行(13年5月)

東シナ海における無人機(推定)の飛行(13年9月)



中国政府が「東シナ海防空識別区」設定を公表(13年11月)

中国軍機の飛行(13年11月4機)
中国海監所属固定翼機による尖閣諸島での領空侵犯(12年12月)

中国公船による尖閣諸島周辺の領海侵入(過去1年間で累計52回180隻)



東シナ海における中国海軍艦艇による海自護衛艦に対する火器管制レーダーの照射(13年1月)

中国海軍艦艇による仲ノ神島と与那国島間の航行(12年12月4隻/13年5月2隻/10月2隻)

中国海軍艦艇による太平洋に向けての東進(13年3月4隻/12月3隻)

Tu-95長距離爆撃機による日本周辺を一周する形での我が国領空近くの飛行(13年3月/12月)

ロシア太平洋艦隊演習(13年8-9月)

ロシア軍戦闘機による利尻島南西沖での領空侵犯(13年2月2機)

ロシア軍東部軍管区における戦闘即応検閲(13年7月)

ロシア海軍艦艇による宗谷海峡の航行(13年7月23隻/8月16隻)



ロシア軍航空機による沖ノ島北西での領空侵犯(13年8月2機)



中国海軍艦艇による宗谷海峡の航行(13年7月5隻)

中国海軍艦艇による大隅海峡の航行(13年6月2隻/8月3隻)



中国軍機による沖縄・宮古島間の飛行(13年7月1機/9月2機/10月12機)



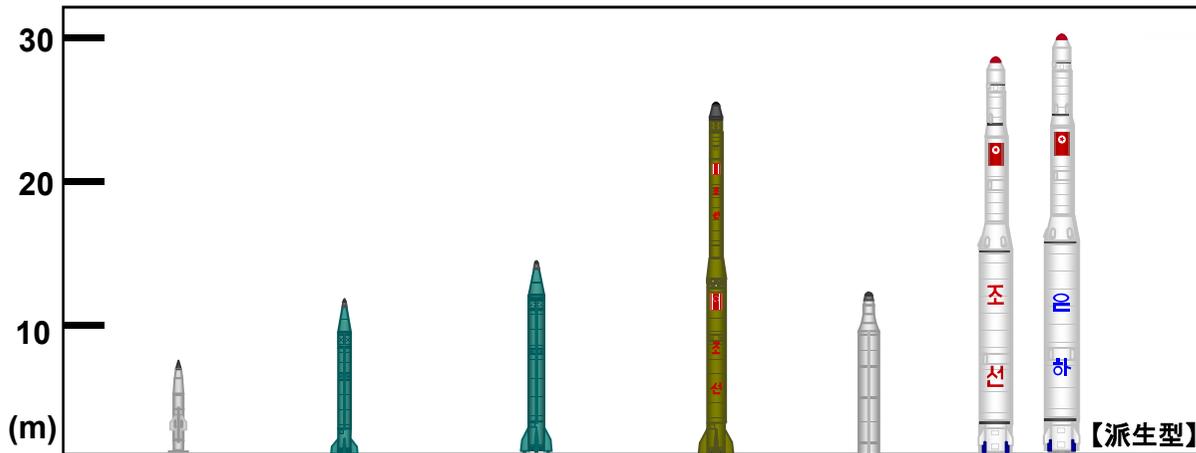
中国海軍艦艇による沖縄本島と宮古島を通過しての太平洋への進出(13年1月3隻/5月3隻/8月2隻/10月5隻)



(事象が生じた場所及び航跡はイメージ)

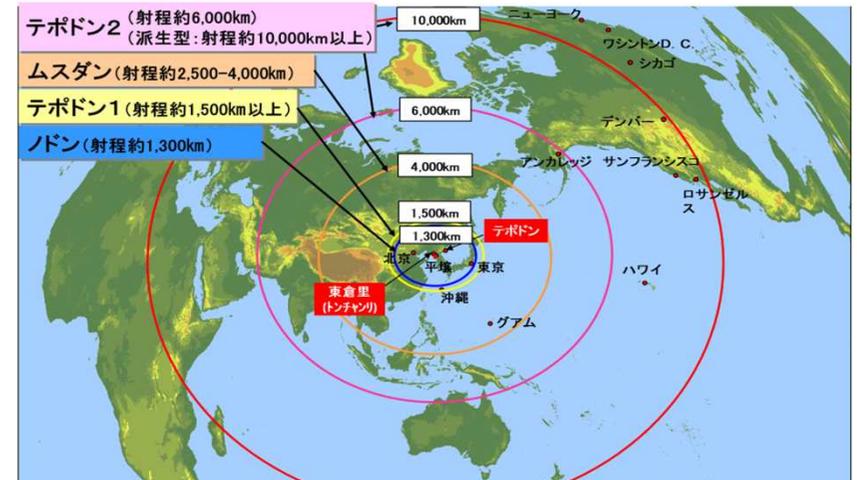
(参考2) 北朝鮮の核・ミサイル開発の現状

- 北朝鮮の弾道ミサイル開発は、累次にわたるミサイル発射により、長射程化や高精度化に資する技術の向上が図られており、新たな段階に入ったと考えられる
- 北朝鮮は、国際社会からの自制要求を顧みず、核実験を実施しており、核兵器の小型化・弾頭化の実現に至っている可能性も排除できず



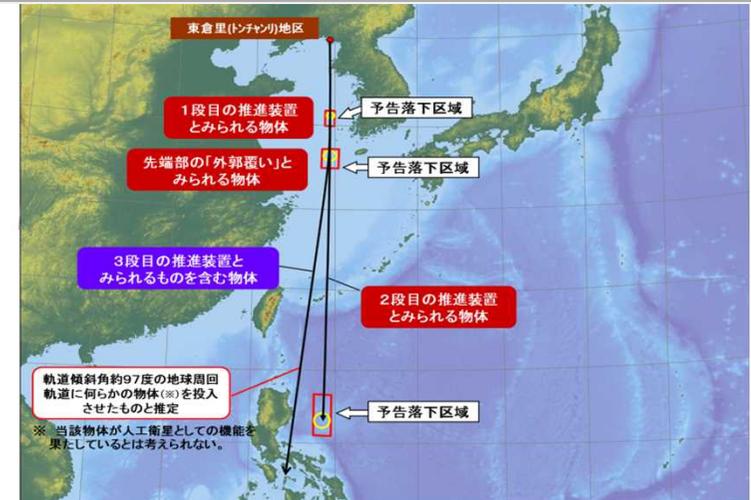
	トクサ	スカッドB/C	ノドン	テポドン1	ムスダン	テポドン2
射程	約120km	約300km／約500km	約1,300km	約1,500km以上	約2,500～4,000km	約6,000km／約10,000km以上
概要	○ 固体燃料推進方式の短距離弾道ミサイル	○ 80年代半ば以降、生産・配備	○ 我が国のほぼ全域がその射程内に入る可能性があり、既に配備されていると考えられる	○ テポドン2を開発するための過渡的なものであった可能性	○ 現在開発中とみられる	○ 派生型は更に3段目の推進装置を付加し射程を延長 ○ 現在、開発を行っているものと考えられる

北朝鮮の弾道ミサイルの射程

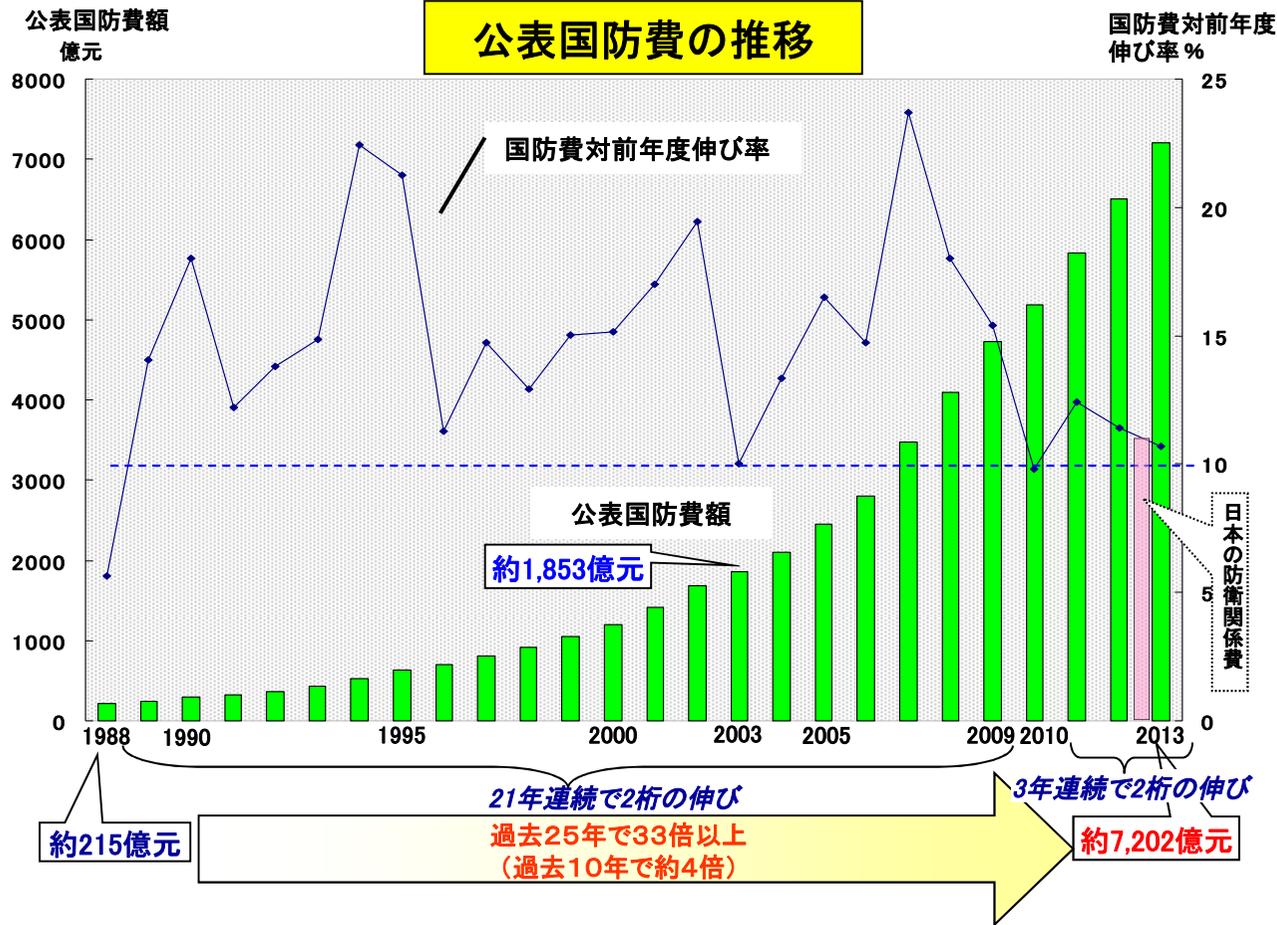


※上記の図は、便宜上平壤を中心に、各ミサイルの到達可能距離を概略のイメージとして示したものである

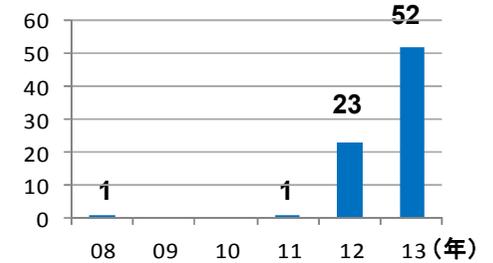
12年12月のミサイル発射の推定飛翔経路図



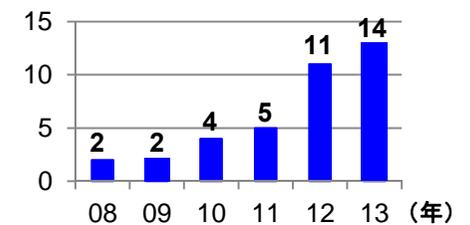
(参考3) 中国の国防費及び活動の活発化



中国公船の領海侵入の回数



中国海軍艦艇の南西諸島等通過回数



- 中国政府は13年度国防費を **7,201億6,800万元**(=約9兆3,622億円)と発表
- 対前年度当初予算比で**698億5,700万元**(=約9,081億円)増、**10.7%の伸び**
- 日本の平成25年度防衛関係費は、4兆6,804億円(SACO関係経費及び米軍再編関係経費のうち地元負担軽減分を除く)